

Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社

〒108 東京都港区三田3-11-28
カメラ相談室 (03) 455-9353

◎サービスステーション・営業所

札幌	〒060 札幌市中央区北三条西4-1 (第一生命ビル)	☎(011)	231-1353
仙台	〒980 仙台市一番町1-1-30 (やまと生命仙台ビル)	☎(022)	266-4151
新潟	〒950 新潟市東大通り1-4-1 (マルタケビル)	☎(0252)	43-2111
新潟	〒104 東京都中央区銀座5-9-9	☎(03)	573-7834
新宿	〒163 東京都新宿区西新宿2-6-1 (住友三角ビル地下1階)	☎(03)	348-4725
横浜	〒221 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-4 (安田生命横浜西口ビル)	☎(045)	312-0211
大宮	〒330 大宮市大成町2-273	☎(0486)	66-3930
静岡	〒420 静岡市藤原2-7-2 (静米会館)	☎(0542)	55-2241
名古屋	〒450 名古屋市中村区名駅3-21-7 (三交ビル)	☎(052)	563-6822
梅田	〒530 大阪市北区中崎西2-4-12 (梅田センタービル)	☎(06)	373-8181
都	〒604 京都市中京区東洞院通御池下ル笹屋町435 (京都御池第一生命ビル)	☎(075)	241-0216
沢	〒920 金沢市玉鉾2-266	☎(0762)	91-1215
高松	〒760 高松市紺屋町9-6 (高松大同生命ビル)	☎(0878)	22-3666
岡山	〒700 岡山市中山下1-9-40 (新岡山ビル)	☎(0862)	22-8228
島	〒730 広島市中区小町2-30 (第二有楽ビル)	☎(082)	245-7791
福岡	〒812 福岡市博多区美野島1-2-1 (キヤノン販売福岡ビル)	☎(092)	411-4173
桃	〒902 那覇市安里102 (日本生命安里ビル)	☎(0988)	67-2106

◎営業所

千葉	〒280 千葉市末広2-13-2	☎(0472)	61-5121
大分	〒870 大分市城崎町1-3-31 (富士火災大分ビル)	☎(0975)	37-4117

◎サービスセンター

東京	〒108 東京都港区港南2-13-29	☎(03)	450-2731
大阪	〒540 大阪市東区森の宮中央2-10-9	☎(06)	941-1076

◎休業のご案内
新宿(第3木曜日)銀座・梅田(日曜日・祝日)その他(土・日曜日・祝日)

Canon

オートボーイ LITE



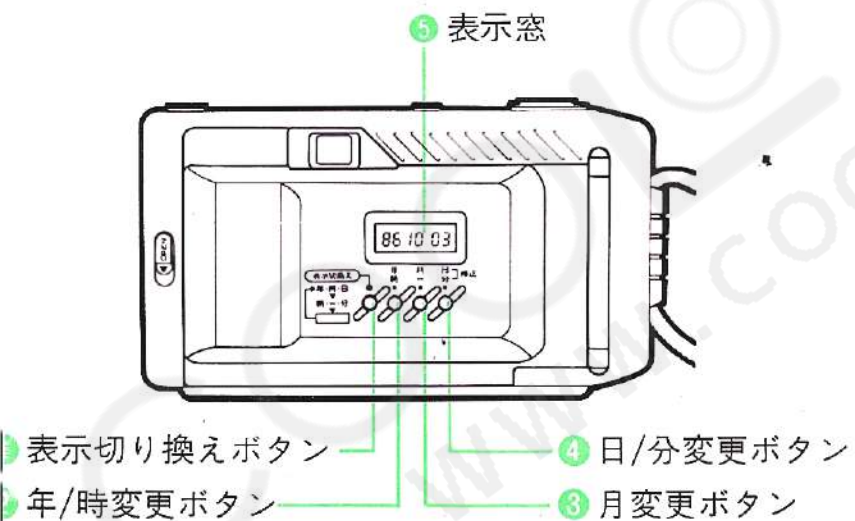
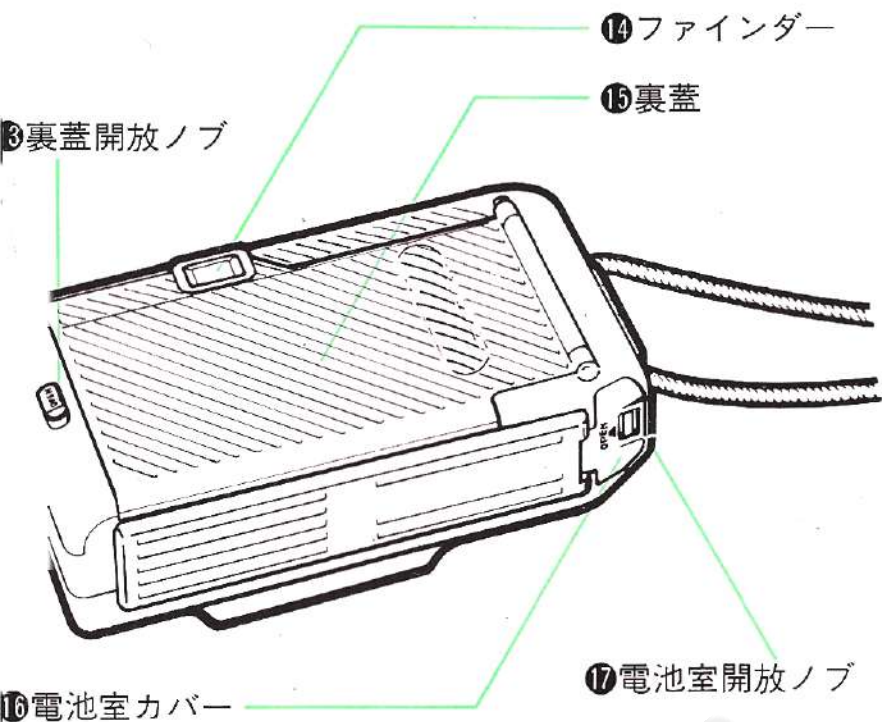
オートボーイ LITE クオーツデット

J

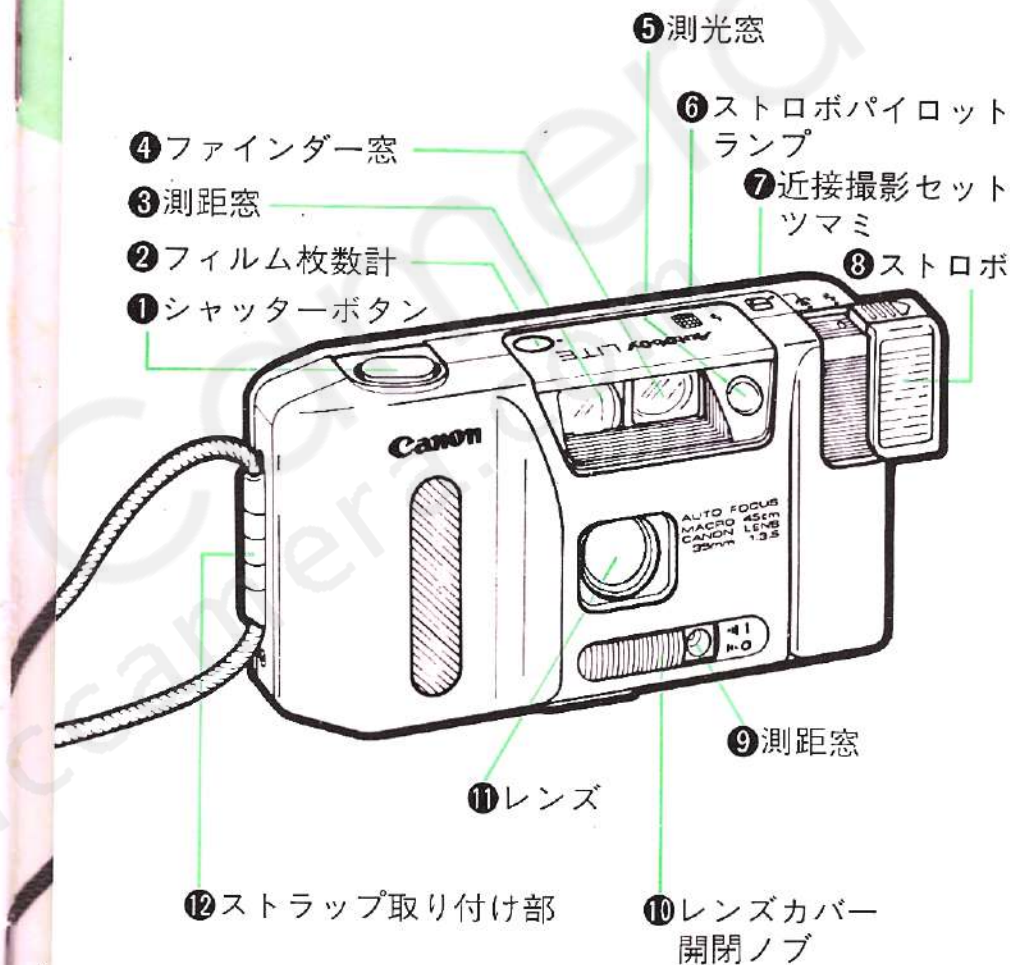
日本語版

使用説明書

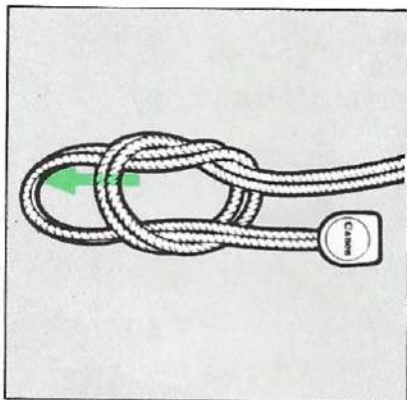
各部名称



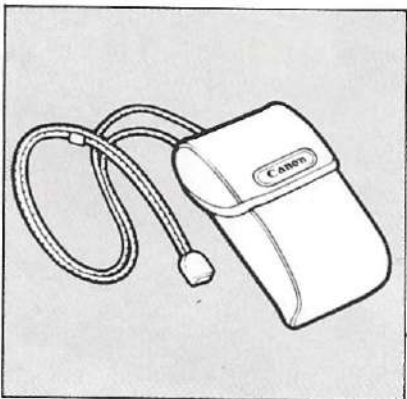
各部名称



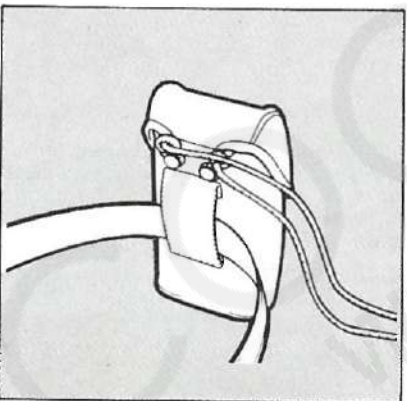
ストラップとケース



このカメラはストラップが組み込まれています。携帯の際は図のように長さを調節してください。

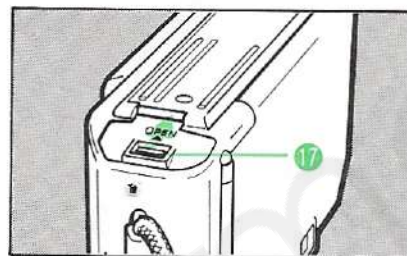


ケースは図のようにベルトに通して使用することもできます。

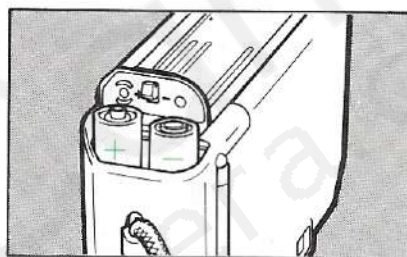


1. 電池を入れます

このカメラは電池を入れないと動きません。同じ銘柄で新品の単4形アルカリマンガン電池を2本ご用意ください。



1) 電池室開放ノブ⑰を矢印方向に押し開けます。

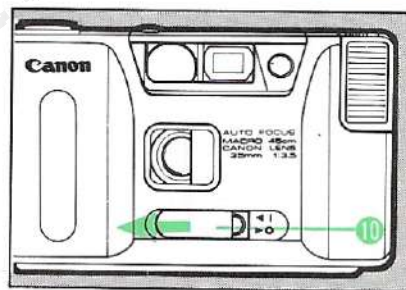


2) 電池室カバー⑯裏面の表示に従って+-の方向を間違えないように電池を入れます。

3) カバーを押しつけて閉じます。

◎Ni-Cd電池は使用しないでください。

2. レンズカバーを開けます

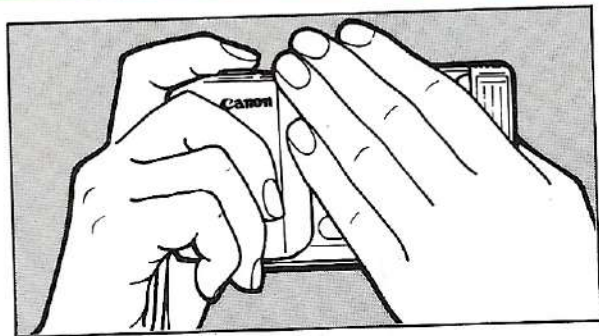


レンズカバー開放ノブ⑩を図の矢印方向一杯に押し開けます。

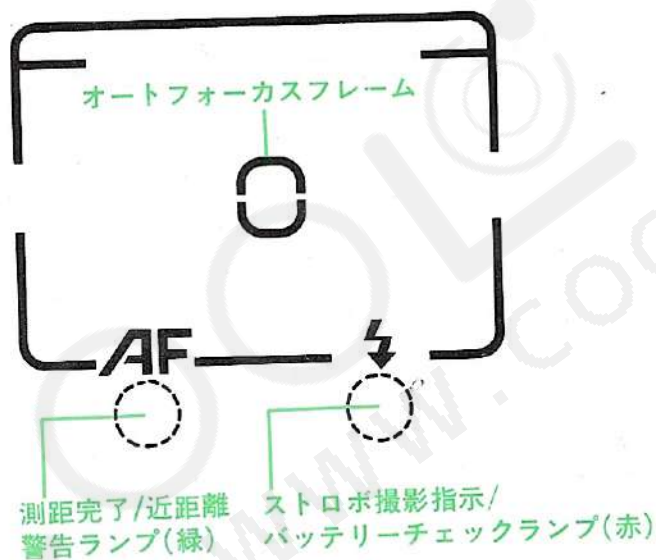
◎レンズカバーを完全に開けないとシャッターボタンは押せません。

◎撮影しないときは、不用意にシャッターボタンを押したりレンズに触れたりしないよう、レンズカバーを閉じておいてください。

3. 電池のチェックをします



- 1) シャッターボタンを軽く押しながら、測光窓⑤を手でおおいます。
- 2) ファインダー⑭をのぞいて赤ランプ（ストロボ撮影指示ランプ兼バッテリーチェックランプ）が点滅すればOKです。
(緑ランプの点灯または点滅でもOKです。)



◎電池のチェックはストロボを収納した状態で行ってください。

◆赤ランプが点滅しないときは、2本とも同じ銘柄の新品電池に交換してください。（電池の＋が間違っている場合も赤ランプは点滅しませんので確認してください。）

◆撮影可能本数：24枚撮りフィルム、新品アルカリマンガン電池使用時

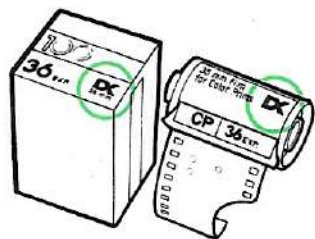
	常温20℃	低温-10℃
ストロボを使わないとき	約50本	約3本
ストロボを使ったとき	約5本	約1本

撮影可能本数は電池によってバラツキがありますので、上記の数字をだいたいの目安にしてください。

◆マンガン電池も使用できますが、撮影本数は少なくなります。

◆電池性能は低温下(0℃以下)では非常に低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互にお使いください。なお、低温下で低下した電池性能は常温に戻ると復元しますので捨てないでください。

4. フィルムを入れます

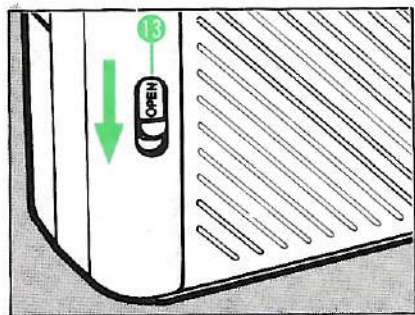


◆このカメラには、DX
マーク付きネガカラー
フィルムをご使用くだ
さい。カメラが自動的
にフィルム感度を読み
取ってセットします。

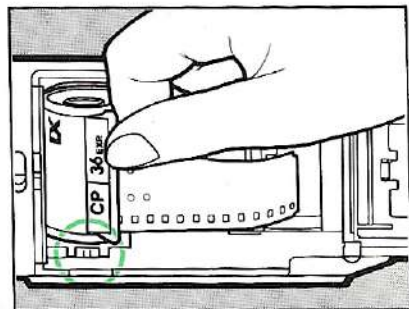
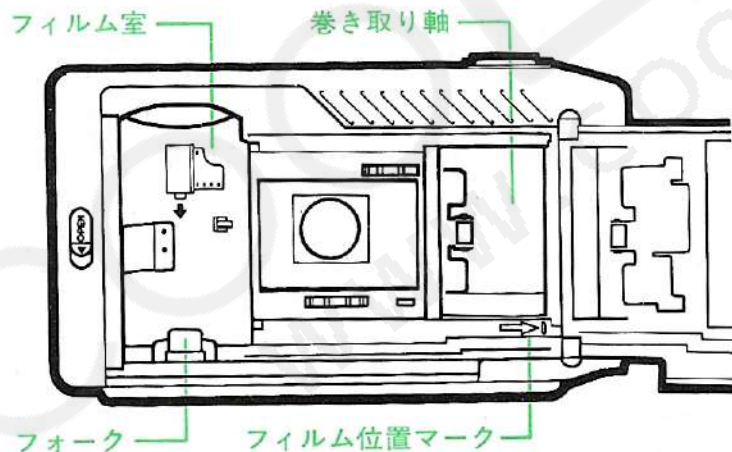
なお使用できるフィルム感度はISO 100~400です。

◎リバーサルフィルムの場合はISO 100または400をご
使用ください。

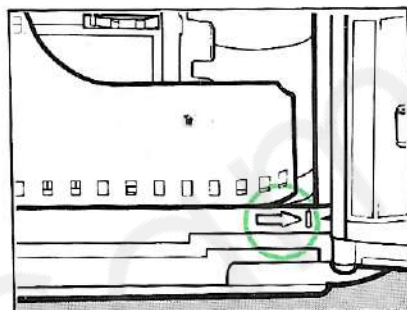
◎DX マークのないフィルムはISO 100をご使用ください。



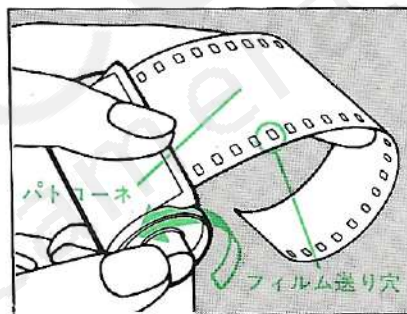
1) 裏蓋開放ノブ⑬を矢印
方向に下げて、裏蓋を
開けます。



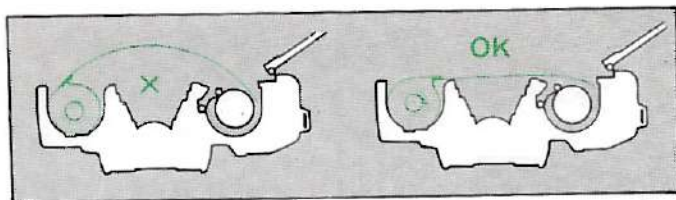
2) 図のようにフィルム軸
の突き出た方を下にし
て、オレンジ色のフォ
ークを押しつけながら
フィルムを入れます。



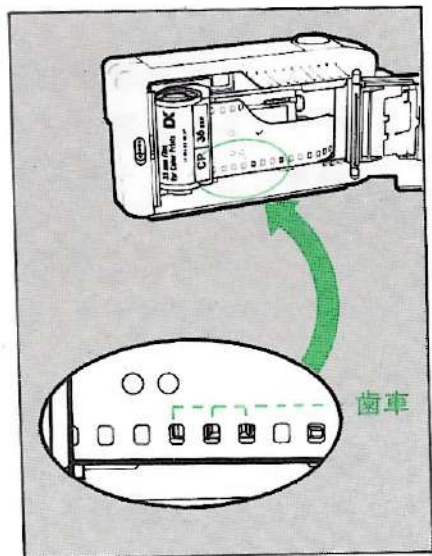
3) フィルムは先端が右下
のフィルム位置マーク
➡■に合うようセット
します。



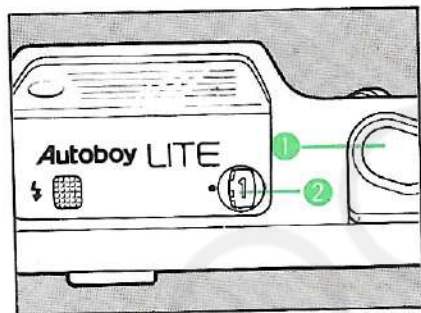
◆フィルムの引き出し部
分が長いものはパトロ
ーネに少し巻き戻し、
フィルム位置マークに
合うように長さを調節
してください。



◆フィルムは図のように入れてください。



4) フィルム送り穴に歯車(スプロケット)が入っていることを確認して裏蓋を閉じます。

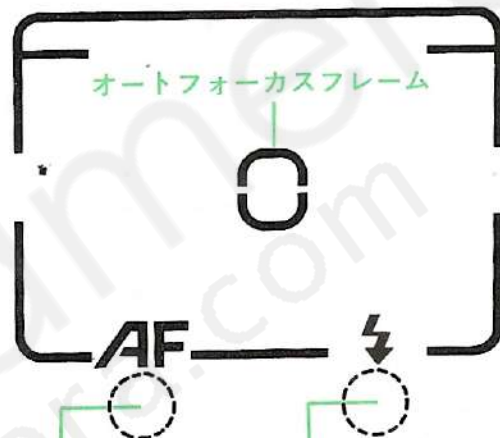


5) フィルム枚数計に「1」が出るまで繰り返しシャッターボタンを押します。

◆シャッターボタンを押してもフィルム枚数計が動かないときは、フィルムが正しく送られていません。フィルムを正しく入れ直してください。

5. 撮影です(通常撮影)

撮りたいものをオートフォーカスフレームに合わせればピントの合った写真を撮ることができます。



測距完了/近距離警告ランプ(緑)

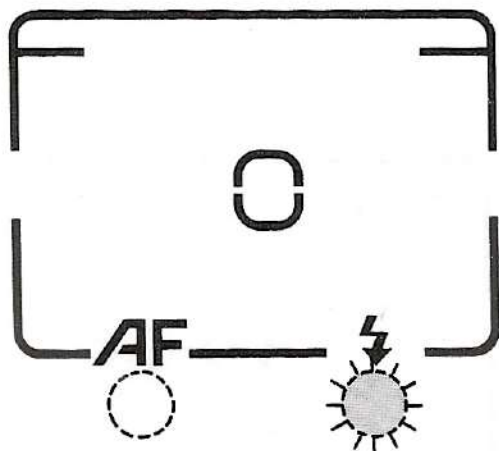
ストロボ撮影指示/バッテリーチェックランプ(赤)

- 1) ファインダー⑭をのぞき、オートフォーカスフレームを撮りたいものに合わせます。
- 2) シャッターボタンを軽く押してファインダー内に緑ランプが点灯していることを確認します。
- 3) 赤ランプが点滅せず緑ランプだけが点灯していれば、シャッターボタンをさらに深く押して撮影します。

撮影できる範囲は0.95m～∞です。0.95m以上離れて撮影してください。

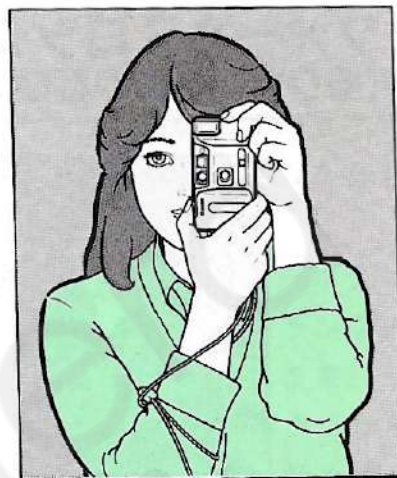
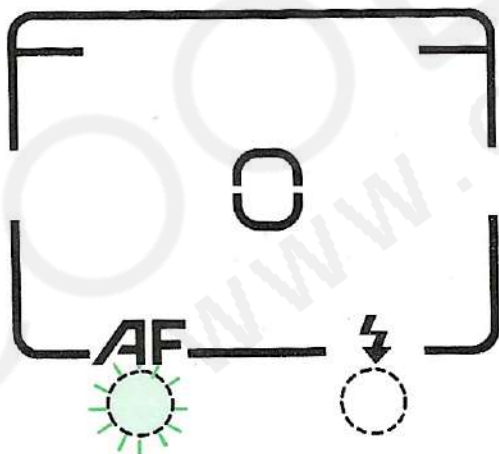
赤ランプが点滅したら？

ストロボ撮影に切り換えてください(P17参照)。

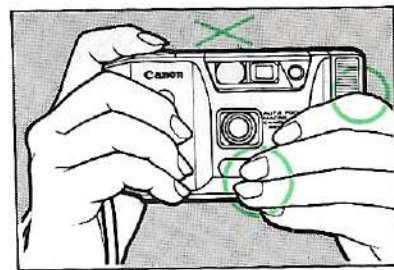


緑ランプが点滅したら？

撮りたいものが近すぎます。一度シャッターボタンから指を離し、撮りたいものから離れ、再びシャッターボタンを軽く押しても緑ランプが点滅しない距離で撮影してください。または近接撮影(P19)に切り換えてください。



◆カメラを構えるときは、一方のひじを軽く体につけます。



◆カメラ前面の測距窓③、⑨、レンズ⑪、測光窓⑤、ストロボ⑧などを指や髪などでおおわないでください。

撮影するとカメラが自動的にフィルムを巻きあげますが、電池の容量が低下すると巻き上げができなくなり、シャッターが切れません。このような場合には電池を新しいものと入れ換えてください。

フォーカスロック撮影 (撮りたいものが画面の中央にないとき)



人物にピントが合っていない写真



人物にピントが合っている写真

構図によっては、ピントを合わせたいものがオートフォーカスフレームから外れ、左上の写真のようにピント外れの写真になってしまうことがあります。そのようなときは次のように撮影します。



1)ファインダー⑭をのぞいて、ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを合わせます。

2)軽くシャッターボタンを押して、緑ランプの点灯を確認します。

3)シャッターボタンから指を離さず、軽く押しただままで撮りたい構図に戻してさらにシャッターボタンを深く押し

ます。
(軽く押した指をシャッターボタンから離せば何度でもフォーカスロック撮影を繰り返すことができます。)



◆写すものによって、オートフォーカス機構が正しく働かないことがあります。

- 例：①光沢のあるもの(車のボディーなど)
②反射しにくいもの(黒い髪など)
③ガラス越しのもの

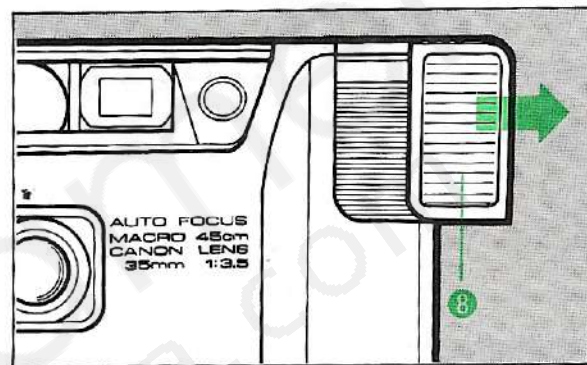
◆光沢のあるもの、反射しにくいものを撮るときは、撮りたいものとほぼ等しい距離にある別のもの測距してから撮影してください。


ガラス越しのものを撮るときは、ガラスに密着して撮るか、ガラスに対し斜めに撮影してください。



ストロボ撮影 (暗い場所で撮りたいとき)

シャッターボタンを軽く押して、ファインダー内に赤ランプが点滅したらストロボを使って撮影してください。



- 1) ストロボ⑧を上部に記された矢印の方向にスライドさせ、マークのところまで完全に引き出します。
- 2) パイロットランプ⑥がついたことを確認します。
- 3) ファインダーをのぞき、オートフォーカスフレームを撮りたいものに合わせて撮影します。
- 4) 撮影後は必ず、ストロボを押し戻してください。

◆ストロボで撮影できる距離は、ネガカラーフィルム使用時で

ISO 100 のとき 0.95～4 m

ISO 400 のとき 0.95～8 m です。

◎パイロットランプがつく前に撮影すると、光量不足の暗い写真になります。ご注意ください。

◎シャッターボタンを軽く押したままにしていると、ストロボのパイロットランプは点灯しません。

◎パイロットランプ点灯後でも軽くシャッターボタンを押すと赤ランプが点滅しますが、ストロボ撮影は正しく行われます。

◎ストロボを使用しないときは、必ず押し戻しておいてください。ストロボを引き出したままにしていると電池消耗を早めます。

日中ストロボ撮影

室内窓際など逆光の時や、木かげ・夕方などの人物撮影で、写される人の顔が暗くなってしまう場合にも、ストロボを使用すればきれいな写真を撮ることができます。約3 m以内で使用すると効果があります。



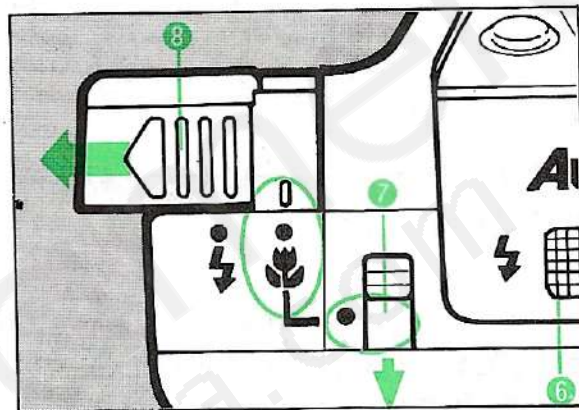
日中または夕方の逆光写真



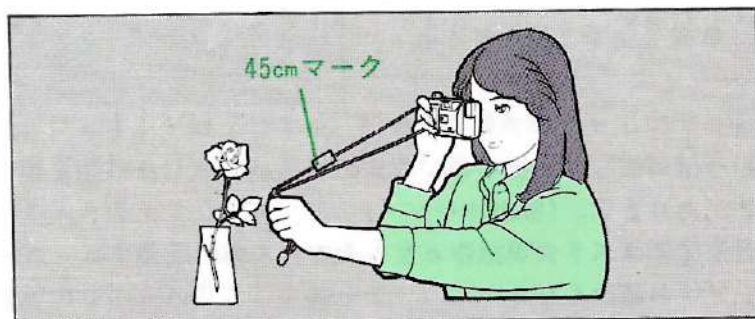
ストロボ撮影写真

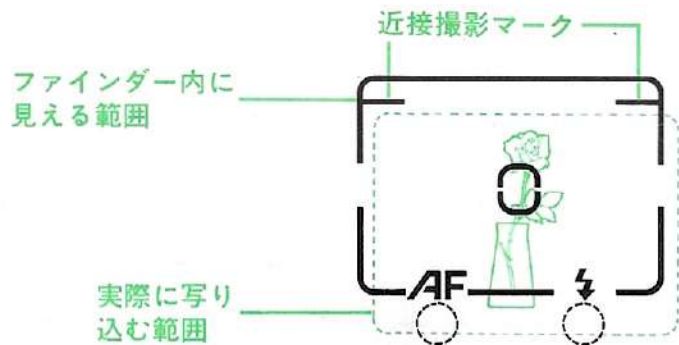
近接撮影

撮りたいものに、近づいて大きく写したいときと、シャッターボタンを軽く押して、ファインダー内の緑ランプが点滅したときは近接撮影に切り換えてください。



- 1) 図のように近接撮影セットツマミ⑦(黄色)を、●マークのところまでスライドさせたまま、ストロボ⑧を●マークのところまで引き出します。
- 2) パイロットランプ⑥がついたことを確認します。
- 3) 近接撮影をするときはストラップの長さを目安にしてください。図のようにストラップを一杯に伸ばし、被写体との距離を確認します。
- 4) シャッターボタンを深く押して撮影します。
- 5) 撮影が終わったら、ストロボを押し戻します。





近接撮影では、ファインダーに見える範囲ではなく、点線内の範囲が写ります。

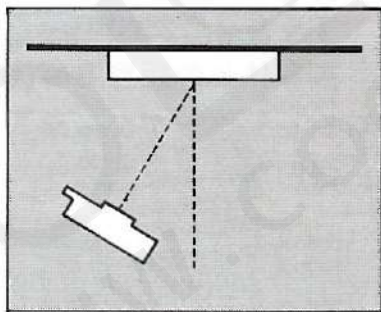
◎近接撮影ができるのは45cm～110cmです。なお45cmより近くのもの撮るとピントと露出が合いません。ストラップの黄色いマークは45cm位置を示します。

◎パイロットランプがつく前にシャッターボタンを押すと、光量不足の暗い写真になります。

◎近接撮影に切り換えた後は、軽くシャッターボタンを押しても緑ランプは点灯、点滅しません。

◎ストロボ撮影を解除するときは、ストロボを押し戻してください。

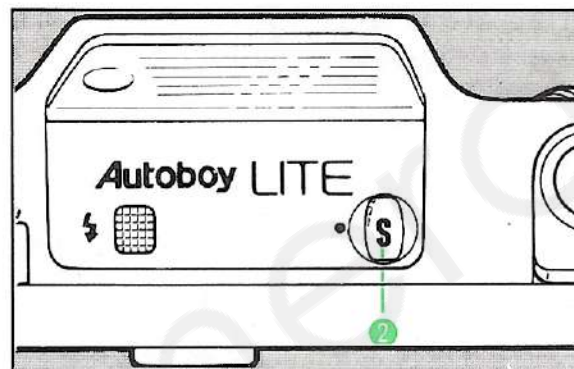
◎光沢のある平らなもの（写真など）を撮るときは、ストロボが反射してきれいに写りませんので、図のように、少し斜めの位置から撮るようにしてください。



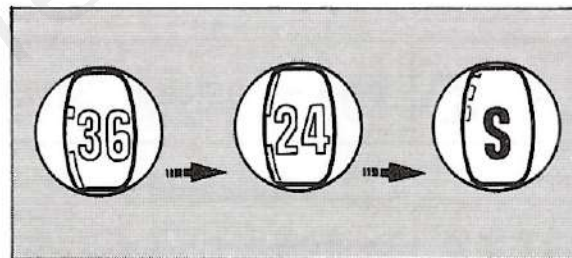
◎白っぽい被写体を撮ると、写真の調子が明るくなり過ぎることがあります。（露出オーバー）

◎近接撮影はストロボ撮影となるので、人物の顔のクローズアップはお避けください。

6. フィルムを取り出します



- 1) このカメラは、フィルムが終わると自動的に巻き戻されますのでフィルムの巻き戻し操作は不要です。このときフィルム枚数計②も連動して逆回転します。
- 2) 巻き戻しが終わったら、フィルム枚数計が“S”になっていることを確認してください。



- 3) 裏蓋⑬を開いてフィルムを取り出します。

◎フィルムを途中で巻き戻すときは、レンズを手で覆いシャッターボタンを繰り返し押し続けてフィルムを最後まで撮り終わった状態にしてください。

◎なおフィルムが終了しても、電池の容量が低下していると巻き戻しが始まりません。このような場合には電池を新しいものと入れ換えてください。



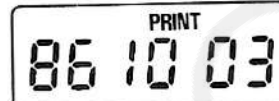
◎フィルムの規定枚数以上に撮影すると、最後のコマは現像処理でカットされることがあります。

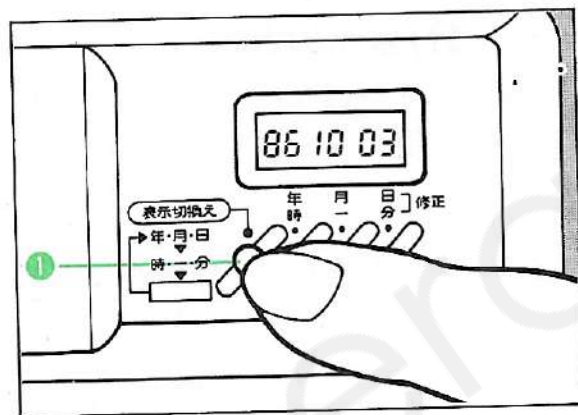
デート機構について

ここからは、オートボーイライククオートデート機構(日付け写し込み機構)の説明です。

オートボーイライククオートデートは、撮影した日付けや時間が写真に写し込まれる機構を持つカメラです。2019年12月31日までの日付けを記憶しているクオート制御の自動カレンダーが組み込まれていますので、撮影のたびに日付けをセットする必要はありません。(P30の下の図参照)

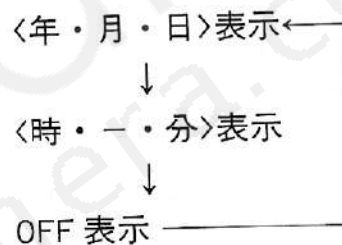
<表示の例>

	●年・月・日表示(例 1986年10月3日)
	●時・-・分表示(例 20時10分)
	●OFF表示(写し込みが行われません)
	●写し込み確認表示 (写し込み確認マークが撮影後0.5~1秒間点灯します)



表示切り換え・修正

表示切り換えボタン①を押すたびに、次のように表示が変わります。



●表示された数字を修正したいときは

1.<年・月・日>表示のとき

- 1)年(/時)変更ボタン②を押して、西暦年の下2桁をセットします。例えば1985年は85と表示されます。
- 2)同じく月変更ボタン③、日(分)変更ボタン④を押して「月」、「日」をセットします。

◎数値変更ボタンを押すたびに数字がひとつずつ進みます。また、押し続けると数字が連続して早送りされます。

◎日(/分)ボタン④を押し続けて、「日」の数字が31から1に変わっても翌月の表示になることはありません。「月」と「年」においても同様ですので<年・月・日>表示ではどの桁から修正しても構いません。

2.〈時・分〉表示のとき

- 1) (日/)分変更ボタン④を押して「分」をセットします。
- 2) 次に(年/)時変更ボタン②を押して「時」をセットします。

◆さらに正確に時刻を合わせたい場合は、月変更ボタン③を使います。

電話・ラジオなどの時報に合わせて、月変更ボタン③を押すと、0秒にリセットされます。それから速やかに1)、2)の要領で、「分」、「時」をセットしてください。

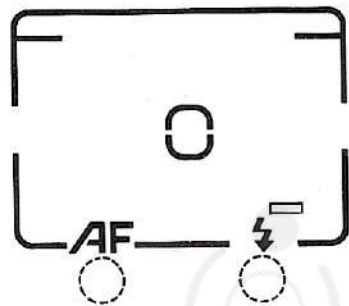
写し込み

表示窓の表示が OFF のとき以外は、データは全て写真に写し込まれます。

◎データは右図の位置に写し込まれます。

◎写し込み位置に明るいものがくると数字が読みにくくなります。また、カラーフィルムの場合、数字はオレンジ色に写りますのでオレンジ系のものや白いものが写し込み位置にあると読みにくくなります。

◎データ写し込み用の電池が消耗すると日付けや時刻が写り込みませんので、そのときは速やかに電池を交換してください。なお電池の寿命は工場出荷時より約4年です。



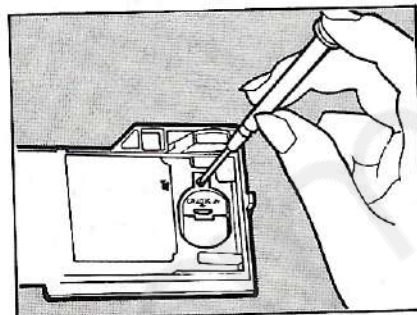
電池交換

使用電池：コイン型リチウム電池(3V)

JIS CR2025

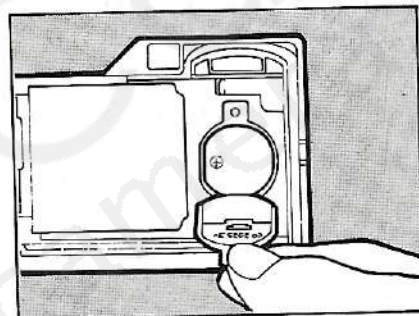
電池寿命：約4年

交換時期：電池室蓋上面にシールにて表示

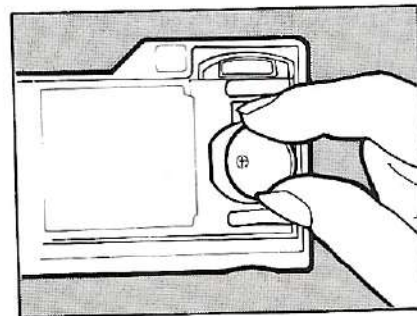


交換方法：

- 1) 裏蓋を開けます。
- 2) 小型のプラスドライバーでデート用電池室蓋を外すと、電池が外れます。



◎電池室カバーを外しても電池が外れないときは、電池室カバーの爪を用いて取り出してください。



- 3) 電池を外したのち、+、-を間違えないように新品電池を入れます。
- 4) デート用電池室蓋をプラスねじで止めます。

◎交換用の電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

- ◎デット用電池は出荷時にセットされています。
- ◎寒冷地(−10℃以下)ではデット機構が正常に働かないことがありますので、ご注意ください。
- ◎電池交換のとき以外はデット用電池室カバーを開けないでください。
- ◎新品電池を入れると、でたらめな表示が出る場合がありますが、デット機能には支障ありませんので、新たに日付けと時刻をセットしてご使用ください。

液晶

デット表示部と写し込み部には液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用で5年程度で表示が薄くなることがあります。その場合は最寄りのサービスステーションで液晶の交換をご用命ください。(有料)

手入れと保管

- ◆カメラを長期間使用しないときは、電池を抜き取り、風通しの良い涼しく乾燥した場所に保管してください。
- ◆直射日光下の車やトランクの中などは高温になり、故障の原因となることがありますので放置しないでください。
- ◆カメラが故障したときは、高電圧回路がありますので、絶対に自分で分解しないでください。
- ◆カメラ内にごみがついているときは、市販のブロワーブラシで吹きとばすだけにしてください。レンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。
- ◆カメラに水滴がついたり、潮風に当たったときはきれいな乾いた布でよく拭いてください。
なお、特に汚れのひどいときや、すっかり水にぬらしてしまったときは、最寄りのキャノンサービスステーションにご相談ください。
- ◆フィルムはカメラに入っている場合でも、空港でのX線検査による感光は防止されません。フィルムの入ったカメラであることを検査官に伝え、X線の照射を避けてください。

主要性能

<キヤノンオートボーイライトクォーツデート/ オートボーイライト>

<型式> 35mmレンズシャッター式AF全自動カメラ

<画面サイズ> 24×36mm

<レンズ> キヤノンレンズ35mm F3.5 3群3枚、スペクトラコーティング

<レンズカバー> 開けるとレリーズ可能、閉じるとレリーズロック

<焦点調節>

通常撮影時：アクティブオートフォーカス

近接撮影時：0.69m固定焦点

<撮影距離>

通常撮影時：0.95m～∞

近接撮影時：0.45m～1.1m

<シャッター型式> 絞り兼用プログラム式電磁駆動シャッター

<ファインダー> アルバダ式逆ガリレオファインダー倍率：0.45倍、オートフォーカスフレーム、視野枠（0.45m近接撮影時補正マーク付）、ストロボ撮影指示兼バッテリーチェックランプ（赤色LED、測距完了および近距離警告ランプ（緑色LED））

<近接撮影> 可能、近接撮影セットスイッチとストロボ併用による

<フォーカスロック撮影> 可能

<フィルム装てん> 自動

<フィルム巻き上げ> 自動

<フィルム巻き戻し> フィルム終了時自動巻き戻し開始、完了後オートストップ

<裏蓋開放> 裏蓋開放ノブによる

<フィルム枚数計> 順算式、裏蓋開放により復帰、フィルム在否確認兼用

<フィルム感度セット> DXコード方式により自動

<測光作動範囲> ISO 100/21°でEV9～15

<内蔵ストロボ> 横スライド方式

<ガイドナンバー> 9(ISO 100m)

<ストロボ連動範囲>

ISO 100で0.95～4.0m、ISO 400で0.95～8.0m

<発光間隔> 8秒以下（新品のアルカリマンガン電池使用で発光後パイロットランプが点灯するまで）

<撮影可能本数> 新品のアルカリマンガン電池使用時（常温20℃）

ストロボを使わないとき：24枚撮りフィルム約50本

ストロボを使うとき：24枚撮りフィルム約5本

<色温度> 昼光色相当

<電源> 単4形アルカリマンガン電池2本使用(LR03、3V) Ni-Cd電池使用不可

<大きさ> 123(幅)×68.7(高さ)×44.5(奥行)mm

<重量> 250g(電池含む)

<オートボーイライトクォーツデートのみ>

<オートデート機構> 液晶表示式クォーツデジタルオートカレンダー時計内蔵

<時計機能> 常温(20℃)下で月差約2分以内

<電源> コイン型リチウム電池(3V)、JIS CR2025 1個

<大きさ> 奥行きのみ、オートボーイライトより5.1mm増

<重量> 265g(リチウム電池含む)

都合により製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。



ロット

セット

トロボ